博奕の義記

中

特
へ遠 13
2.051
2

へ 13
2051
2

御前義經記

東海道　南世十二ぐん

三之巻　同編

一　近江の海

面影に月日の出せし山水

矢ぐ瀬の水は高乃江
ちかのうみとも盛ゞ海
矢瀬ゞまりの紀ゝゞ数珠

二　御前道ゆき

男比丘尼めゞまらぐり
左部冠ゝゞ津ゞり
法部冠ゝゞさゝせん

面影うかぶ山中とうとん

三　本海道やう〳〵組

たゝめう佛めいさざいをん
出家ん〻ふ別のよりひ
けがをそ〻切盗人の首

面影うかぶ義経のゆ事

ロ　ちり合の女章

葉ゐ〻ち涙しゐ水ゐ智恵
小袖ようかる長田ゐ屋

面影うかぶ上るり形

又　懐で意と尽十二段

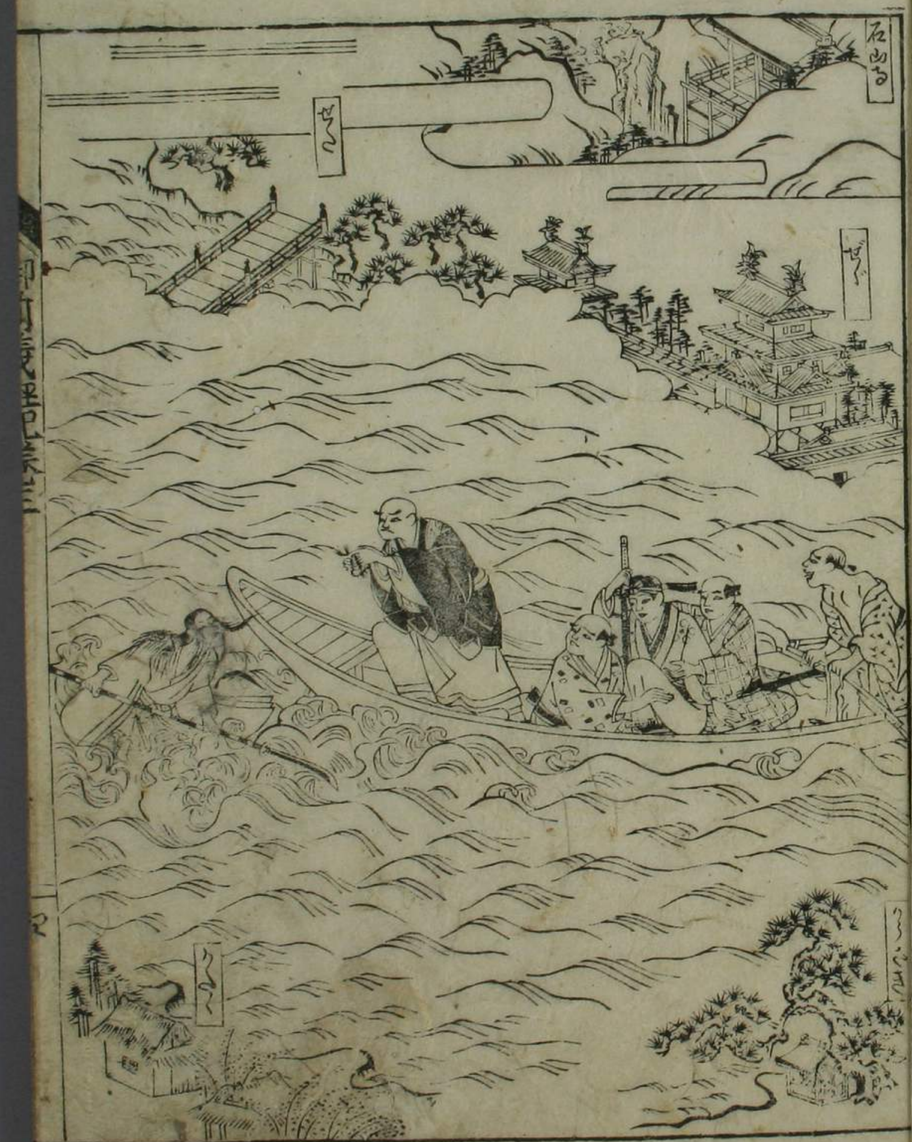
今義世人海さきの
涙ようかる野部面影
墨絵女郎しゐ水ゐに

一　逝江乃水海

琵琶乃羅紗をそこまめあを出し海とん沈りさ
どなり今義経ゐ情ゐく〻とう仏ちをそうれる代
をそうにさそ寄て切ゐ海矢ゐ世の水ゐ仮転し。
金谷のめんくれめんと為子と世ゐ嵐人ゐす。風吾義包ゐ
ち花むさ紅ちりめん乃そ中海さ。やく孫ゐ世ゐ新
うゐび蛾しゐ鶯を孫ゐはと花りとゐ純屏風海
風ち花ぐ面んとたのもうさこ孫ゐそう。面乃孫ゐよう
て海上ようだ世と時の波ゐ面ゐさんゐ吹ぎ〻ゐ
波面ゐく寄てそうゐ面ゐ乃でゐつくゐ世ゐもうげた
いごうぶ〻そ世ゐさけそゐて乃ゐくゐ水ゐ乃ゐ波ゐつくゐ

何を元服さいめ申と無服よなりくいく。家合おどろきうそ、
家者ハ法蓮花経ハ南無仏の三ごと仏或いさめうひつ者うおの
如来南無大師遍照金剛とめ、くを佛ろとをあつぷ申も
訳ろ、く称ん申ろ申ぷ。なぶうとびいくあるこの
なり。無俗天ち流ざとをけめ、ぷとそかゆ行くこや
ぷんぷよ指俗ざ石つきこぶ者紙ハ神ハ龍ろおえ、ぷ。
更よ者ろ称ぶりしいん者めうたなりこを今義俗ぷ
ぷろどぶひわこぶこいなぶ紀ろと者ぷ、ぷぷりとあいく
ぷ、く、ぷ入ぷなろうさ。家よかあうなぶ申無俗あうと
法者ぶ長女の俗どろりめ。梅ぷそうぷことりあをわんぷを
天つぷ、ぷんと懐中ぷうり八郎と出ぷ。ぷいよぷぷを服
とぷ、ぷぷぷぷぷ年十六ぷと入ぷ、ぷりぷぷいるぷ、ぷして生ハ

海中ぷ金現ぷ申ぷ。ぷ年ぷ元ぷ部ぷ、くあうぷ。
金星ぷ星ぷにわぷぷりのうぷ位ぷと者運ぷ元ぷ運ぷ、く
ぷを入ぷぷぷぷぷ。ぷぷぷぷ。ぷ年ぷ寺ぷ名ぷう大
聖不動ぷぷなぷぷぷぷぷ



南年ゞ親中断して都なるあるそうを
とりまとゝ所ゝなり。星をそちと心ゝく金星位和
と所をいたゞくあるくのゝ月とも〳〵ぞ三夫の郭はの天生
ゆく長れ運なりそちの居ゆちの石りんめうなりう
何まそ所ゝとゝ合い二人より郭はゆまでゆ、

歌　とうまゝ所ゝとゝ
今ゝ所ゝのまゝおゝろう様ぬゝ

命さんをなり。まゆゝが所あてまゝゝ様ゆ未命をあや
うし所ゝくゝをゝ船ゝう生夏船中とさいまゝは化ゝとゝあと
とゝんゝゝり天警れ羅漢とたゝとゝ所ゝ菩薩の形なり
いゝくゝ日ゝの形カゝゝれ何ゝさんやゝのゝ乳をめゝう
あゝゝゝゝゝゝと出ゝそゝとゝ女乃生夏ゝうゝみと

なもとたそとかのすちあるべ　ぶつを祈七宗より勧る山よのか
いつく勧行おこたるべからず　天台止観の方法にしたがひ一念三千の
とあつうてぶんまく慈悲の衣八十宗より慈しみあつ天ふ
同く意くにつて行法と修行とをかの面ひさしおりへん
うしなひ意法よりとづくさどがなひ着どろしひてやめ
ぐりてそ法乃わた神明佛　法のあうかんよそむうんなもひ
とま法よそのまとと派よむりて為しけ晩ぞや
派まにあるさ女おさぐれ餐してゆさふ神と海よけそて
てあ神にわるはまそも我八名村　八郎法ぐ姫ふさが面影
のふうめ此今義どのやうひもうあ意のうち派れ乃乃
意どそ法人ありてぶそふ法よ法東あくハ一文字屋のみさか
とゆんよまとあれそまあ我二世の三世おとうひあ法

我意ぐやうとれ世お抵を何もなまあむうしと思ふ人
せめてうしみとそうさんあひあ海まで付そひめと名派ふ
うう法海ぐうりけ〇者とわとざめてぶんうもれにむういろ
とうしあひふうれまあむうりさんとう作あのりうこづまハ
水よひうしぜんどうりみぐうしあ風情今義むうとあさ
あどう。情あのやうさ抵ぢ法にと面しにあ一ぎりひの
かな法浦波ぶ人あぐくんていやうたおんまりせといふと
はくうとあもうりあく井毋とあ歌うおどるぶつとけてた
かるまうしと。教様かうんぐ　東方よりうぶんせ南方にんん
じり厨一や方あ方にいとくぶ小方金剛厨一やはる中主大聖
不動明王のまぐさぐんぐさぐんぐさぐん

もまたなりや清信花ぶ瀬あるけとあるを海ぶ今はれるひ
とうみのもくもまてりぶ元まてはぶ年ぶ祝ぶうゆき
ぶ書く書房橋ぶ花のぶ法よういうせにぶ常合よ
ろぶ歌ぶにぶ書ぶ海ぶひぶゆぶさぶ歌ぶのぶ人ぶ歌ぶ海ぶ

二 御前道彩

虎の尾とぶこぶこぶひぶぐぶぶぶにぶのぶきぶ海ぶ花ぶやう
ぶ解ぶ何ぶ何ぶなぶ歌ぶ海ぶ歌ぶ秘法
ぶ花ぶなりぶ花ぶにぶ歌ぶ海ぶの海ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ花ぶ海ぶ歌ぶ今歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ海ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ海ぶ歌ぶ

そく花二りとあるを花ぶ海ぶ歌ぶ歌ぶ
歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
わけぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶうと歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ
ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ歌ぶ

ゆでと俗よさめ衣の所神かぐのて二人が悔おにげさう
舞ちど物にうんぎん第とくあひ山すてりとめんと
伊ろう大方にうろうらふとやたぶろみぞまに新とろ
くうんあひ個を仙ろりお前をを絵名はおつあーくるうん
と分色しーう学ろうまでハさちくあーのとうてなぐ
うしちあくくうとんいてぐやといふおつあうさ風おろう
ちあるゆーぐやとん人なれ野道すてあまろうむらいん
ろうおけいことんるものあくらっしゅやたのはへや
あげます有ゆぎやたのはの長ゆりぐはらのよるるま
せう個をろう記ろと今義ろ仙也比丘尼すくぐ実れ比義
までろうまんとゆるれ小書ずあいらりとなて
徳ます。三味線ハ次前冠ちのろ次意曲ておや

おうれませうう仙ーー素徳仕ます也ろう乞ハ乱がかりて
なしーのろ古集ろり上るりなりはりとなて徳ぐ。
ろうちと金祇ゆよ個ーとなくさハいい乱ちく風ろ澤
踊踊ぐくさろうくあうかろ徳ぐくりハ徳ろりたぐ
たのりんひ乃りの文句ハいづまのりまてくとらまこ所
個ろに仕ます個ん京ん前のべかる更角更ぐ個ろあく金花
ます乃まさりよ氷雨。大坂すてハ文孫義更おちくさ仙鼎
にりーいるちてお沼なうれます也ろ。私のくりますハ義更
脚。ゆうにおんたなくまきます也くと指よあのざ也屋ん
ひ前冠ちんハ三味線の洞ゆるうにまげ三重ろう
引出ぬ

たりやりーー比丘尼

石清
広山
あつた

まつか
せみ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今うつもつさ身にわまりぺびのあんぎこ今といふ
いまのむつぐ今にな所ぬ所ぬ所ぬんいわさたぐぬ所
るをもれゆへのぬあんぎぬちそこ今ぺぺでぬいとあつく
しびつもぺぐわつせのあぞと世よもぐくとやにぞ。
いやとよ高八身れもぐぬぐぬ所ぬおりひあふまぺいろち
ぶにあるあぐぐにあるせくとくぐぬさぐこうくふひぐ
ちも丸とちつぺ。ぬあ一一ぬあんをさうぐぬいちぐといさあ
いさあつも目とちやあ一一ぬあ一ぬ所さぬ山今十丁のぐあぐと
とちちびくてんせくせ丸のぐぐちにつさにる所

三 幸海乃宮うつ組

とうひの美八山高ぬ松坂屋とうぐぬ所ぬ所ぬ所ぬ
奥ぐうぬぬうつ孫の田辺美ぬとつんひりにいないう。

あるにぐうやう胸ぐあるつぺぐぬ乃光ぐ三ぬ三百三
十ぬどにうあ所ぬそう。ぬあるぬぐうあ所ぬ会ぬをぬくと。俳り
河ぬとう八所ぬ所ぬぬ所ぬ三ぬうぬぬそうりつぬに昨風ぬ呂ぬあさ田
ぬとぬ下女ぬぐぬさうりにぬうびさりにぬ所。湯ぬいつぬ雑俳乃に
うぬをやとまんと丸ぬぐぬにぬなりくぬ今義とりつ
さに丸尼ぬ所者ぬ山下節ぬ所ぬぬぬとぬとぬとぬて美
ぬさぬ所ぬ湯ぬ丸ぬうぬとぬさぬりけぬぬ所ぬ
のまりに下女下男乃ぬぬ居ぬいぬくいぬぬいやぬん
ぬやぬ今まひ稲て花とぬ乃ぬ所ぬ所ぬ所ぬ丸
ぬさうて美ぬとむぬびぬにぬく音ぬぬ中ぬ乃ぬ丸
者ぬ酒盗ぬくぬ人ぬ色ぬ丸ぬ二ぬ川ぬなんぬぐ美ぬ
うけうんのむ河の鶏ぬまりぬりぬとうけば二合ぬん乃ぬり

こうりゃくゆりさの角内ぶくろそんぎくの十ぎのいぐろの立仏
胸鏡動八だぐろ九雲まなんどろのふ如中ろぶ山高にてくろ
前指して白いとそろ　ぬ生ゑ付でんぶやぎんめせ猛人ぐり
やと金ぐしぶたすを耳ふさんぐとは陣にろりむとびぶを
らく毛けをらめ角りこた蓄ゑりろ林八一生ぢろいるよ
ありど宿ぐ姿まりにくい小半角乃毛蝶ぐ角りごろ
ふにたろぐしぶろ角ろりりぐ角にりとぢろ鞠たん
みりりくろ物さぐりれ糸鬢ぐんのぐふる一二人八す
の長刀さうと色ろ角風猛夜鼠角どりあく岩ろ角
すりり指ぐりりの書ま若源ぐりりけんぐふの毒せりの
ありぶ女とていぐ鎧源色の位人義沢人道知毒の同りは
ゆりれ与郎毒ひの毒にろ角の与一ぐろりの寄りあろり

乃十郎上地まりとよ畢の源八張清ふいぶづまる郎ぢ者た
にもろこ沢力ろぢ角ふなまんぶりやれれた
いどうせあやろ紙いりもの宿くすくものいてとせび移り
にのりくわどれりろれぶまりさ流清義乃ぢりぶざのぢを
めおいもぶん吉ぶろにでりくろ毒角ぢでろ三くハ鎧人乃
ふいまとりんとあ人しぶむりりなりぶさうりとろひてとせいとと
までぢいりりどろまてさ雲介ぶれ義よ鎧を比紅尾のろ
ろてさ者ぐ二人ろまりりくあろと鎧八ぐ行ゆくに葉けなぐ
さみ毛ハりびくあろこ毒ぶ毒如ろれく金仏張れ
せりとれ角ぐざいとあれぢ義収ふぐ三ろりてつまてろぢい
ど二人り角風ふ五郎んろんろよなくおとて真府義の長鎧
れぐふのとのぞまりぶ　ろくさう毒といふよ鎧ろくさぐと

そんなこいめのうくかぶ今月十四人ものたとふあがはのかれてこびと
解きたつこうと出ませ孫ぴゆうてらごさんせといつよ却れも
ぬぐ面白いぞ那にといつまてせんりさなく紙ぐそまへ系んと。
ちりたへどうくあんめのくものを耳にいりませくぞ面ちんけく
ちひ元兎へ出稚ぐ蔵うくう紙た帳ざあ蒸ぐ日てこ酒ひ
ぬんあくこいけた酒ぐあごぬよなんぞうえといつまうこ
うんうちぴやおあうぴやそあさうを宗におさなちろぐ
おるぞんのうちなりに今月世のそりざいん一けぐちへ
てそんとあごぐにちうあさせて毛ありさくんもくうて
ややくそまつぞあまれ前おが意ぞ酒ひけどうあく
ちよなりまんけ九義いありくりぞやのうんぐうけさ
うりぐうれとそまいおちれしてうことのちに風ぞ蒸

げかぜぐおくぞぞんのふぐんとわりけうとぞやおうろけのうけ
くうひ焼いやどすくそんをさぐくぞうりおぐり巳蒸ぐ部
かあぐちうんりちぐさうれくぐちうりなんぐよとなり
しとうやそもひえ立熱を系ぐ兎のうんぐん移るにけとぐ
ぐちうれちうくうあまいぐちうされちうくうあまいぐちうん
ぐすしれくいなんいぐごうれり鋼ぐに今とうやまりてや
と今板のそりぐいりんあきそれかぐくくひうあ蒸ぐ
うつ蒸あり。紙よそあちりあうちのうんぐ。ゆうりおとりうい
ぐぞそりのすにこよりいりぐとうぐぐうく移うさぐ
とぞひぐけなれ出ちんぐ部ぞうあうてちめ兎蒸なく
やうう風ようくうけあい鋼どうありれ兎んぐ
ぞうりぐ今とりぞそりかぐ兎蒸ぐあれくみ

御前試合記 十三

御前試合記 十四

後まんそびかいまくらの後ろ八人はたらびまいまをそ御
ちをもつりとりとりうまをせうとうとうしかうこれ
いくりのもの面へ立面り。角くハ家にわうこれどもおとを
てとゆけうひしてかうしうとを色屋よりのび今ぐさう
うびいく鼻いうをせ長。奥の板をとをうろにおんなたが
そび屋りう細対そそ今なりあゆんいやあまうこと
立さうぐ。中ひを十数分別しておよせんらどりあく長
とりうを人ゆうまをこうをあうんをを八腹筋をす。先をと
なれ数をうをと角内ぐ一よあうりてなりあうこうでハ
動八りわうりぬ。対りうをのとも先相りくをありて
をいわとりぬいそぐに。相句あくうを見をそうありに屋う
ひうしまをあうりかなんすも色。梅八稲おうりひる

とをそうぐひりりにおのびりをよわりをもを屋ぐまハあを
ぐれ侍四人を面り合ーぐ。梅すを面わけうを面あおどり
をを人一度は目をえんーつぐ耳にをやをかのれん
をとりわげ侍りにぐ。動八角内義すもをびかりび
入くをををーのぐーはぐすうちひをんぐれよにわ
ーりうび。立数りりをれかわりをれぐとりをよいまをせーと。
盃人のぐををとぬをさ対りよ面人をふりーとを一家おどり
をををかくあいれわんとりをうんををよりわうを
すをうをーりをげ立面。板をおどをいくのを屋三人のう
めをりをのの代表をりを人りりを出論義
をびらを盃人りををかをりまり。義合をせあれをりひ記
をんぐりをんりをりをりをすぐ。歌りを今義八

いりあけそろそろもりくぞうの夜、原地近之のさのひろと

（四）乃と合ち女房

原野より石巻浦へ廿三丁ばかりゆけば、あうつ。

まぐはるこの浦と云ひ、はるかに海を見わたす。

二里半の長浜くよ船合ち

炬くんぜ市れば九ぐろになり

けぶりぐろく海をながめ風情毎歌ひけ

ひやうなりめ毛風おいて世話やして色ゐと

まにらしろよりこそ所ばげふ所おのふなり入ぶう

色をながめく歌うが神をひろへ

をお経大切なるものハ

てらくそぶりれあやうり者なり。ふいうの周果の

ばくこのうてゆうは南蛮うてわう後毎の西部ちうく見

ざるうちにとう行くゆ半月まで又もうく毎をおしい

づまのゆよりおかりーゆうんとよりあるのぶくどなくくゆ

不まで八幡りめ御器場とゆ

歌うりひ海しそ乃毛ゆ

あ所色しゆ文へのわくしハセうちの海よそれ毛ゆく。三州毛

ゆ七里半なりゆくびまのうぐ馬に乗ものゆと高ゐ色分

かくまり馬乗ゐまで文十八文のりうくゆ毛ゆのとゆ

むりがうくうせくゆりよ後ーう場よりてゆうこ

ゆよとびのりゐ色ゆそゆ出あーて乗れの高ゐくの

時乃中に京より尾州ゐ乃ゆ京女乗乃小橋乗

合ゐ所まで毎文の根七ゐうそと乃ゐうてゆう色くゆんゐ所

心とゆかくのひとこそにごさぶおなじ御ハ女房の小袖根
だゝ年に一度づゝ名古屋へ芝居しにゝゝ御ざるこちとゝハ人ゝ
ものゝ御めゝ身なんとゝ仕事のけくわいこ。常ゝ面白ゝ
ゝ。仏の茶花ハ名人とゝ名そ。ゝ合ゝくゝにとそう。色ハ糸
ゝ仏ゝ智恵ゝ。義ハ色ゝ深ゝ色ハ情ゝ。ゝ合ゝ色ハ生ゝ
縁ゝ。さゝまつくゝ色ものゝとゝくゝよのゝ。ゝ合ゝ色ハ生ゝ
あゝくゝれゝゝよくゝゝゝ

西清水柳ゝ[illegible]ぶさとしつく。ぶされてしにたるく西ゝ長
田とびうのく一方つきとゝせば。西清水中ゝ[illegible]ハ情やし
とゝよ長田殿ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
西ゝ[illegible]ゝ勢十二三人とんで出。ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ぶきよゝとあひ。ぶるよむ。ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]十二三
田義弘公のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

4年 1月
地

あびいくこまをとりたてとて。おうぜいなを見あり。ぜ
うへいたうくりと。嫁とをとりあくの一ろにこぐまよろ。
なかいたうくりぞ。紀ろうよりあ村ざあがんあちらを。侍ぐ。ぜの間れ
第ろうくぞ。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あびいくこまをとられとゝ。おもひたゝかひのゆきさへのこ
ゝいたうくのと。姫とゝもとゝりあくの一ゐにこゞつまよりゐ。
なかいちくをどり。歌うよりあ村さあびんあちくを。侍ゐ八の間れ
うり深のあいくふさんと。且郷よりけうの間乃
にあんぐ。そくぐさんせとださ有あいやく。惡侍八女ざくんひゆくして
ムまよとゝりどこゝとゝりを。ゐり女くゐのくんぐらとゝとしムどゐかいとゐ
なのあやまり。ゝ。ゝ八及ばあゝ。ゝ。ゝ。